

リハビリの種 Re-NK 通信

3Dプリンタの歴史と印刷までの流れ

今まで3Dプリンタの研修会等の案内はしてきましたが、3Dプリンタ自体の説明をしていなかったため、今回は3Dプリンタの歴史と印刷までの流れを簡単にご紹介させていただきます。

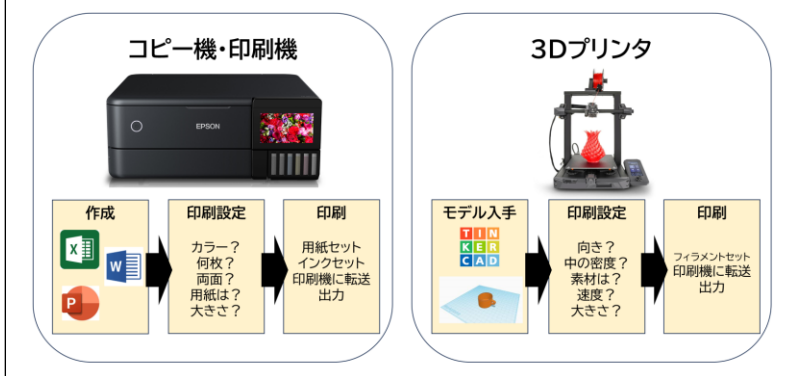
3Dプリンタが考案されたのは1980年で、実は日本人なのです。当時は「ラピッドプロトタイプング」と呼ばれ、1987年より3Dプリンタと呼ばれるようになり、アメリカのチャック・ハルが特許出願し3D Systems社を創業しています。特許から20年経過し特許が切れた2007年頃より、低価格化が進み近年急速に普及してきています。

3Dプリンタは様々な分野で活躍し、今や車やバイク、家なども作れ、インプラントや臓器の研究まで進められています。

「なんだか難しそう…」と興味があっても気が向かない方もいらっしゃると思いますが、実は作成から出力まで至ってシンプルで、仕組みさえ分かれば、普段ワードやエクセルで作成した資料をコピー機で印刷するのと殆ど変わりありません。オープンソースなど活用すれば、すでに出来上がったモデルを用いて印刷する事もできます。

以下にオープンソースを活用して入手できる3Dプリンタで作成した自助具を下にいくつかご紹介します。

印刷までの流れ



プルトップオープナー

楽マジッパー

読めるんです書けるんです

紙パックオープナー

カラトリーホルダー

ストローホルダー

※Fab Lab品川 HPより引用

リハビリコラム

目的や意味を考える

皆さんは普段料理をする時、どのような目的で行っていますか？ “家族の為”という方もいれば、“節約の為” “趣味”など人それぞれ違った目的を持って行っていると思います。いつもお客様の作業と関わる際には、この目的を考えるようにしています。

なぜこの目的が必要かと言いますと、目的によってその方にとっての作業の意味が変わってくるからです。例えば、趣味の為に料理を作りたいと思っている方は、料理が癒しになり、活力となります。その為、食材に拘るかもしれませんが、ちょっとした手間も惜しまず作るかもしれません。

一方で、節約の為に料理を作りたいと考えている方は、料理に使命感を抱いて行ったり、より節約できた事に対する達成感を味わうかもしれません。その為に、より時短できる料理を模索したり、安いスーパーで買い物をする事も重要になってきます。

これらを考える事で、拘る場面や料理に必要な身体機能、技術などが変わってくる為、アプローチの方法も変わってきます。



まずはお気軽にご連絡ください

☎ 090-5087-3813

人と人、人とまち、人と作業を繋げる。

別府市リハビリリンク

🔍 検索

